

で仕事をするときに意識や考え方がだいぶ変わりました。何回も見通しを立てることをやっていくことで、今度は見通しを立てなくてもいいことがあるので、必要なときに見通しを立てることの大事さを学びました。3年生のとき、PDCAサイクルをやり、今中生との交流学习があって振り返りシートを書いたときにPDCAをもとに振り返りをしたことで、失敗したときに次どうしなければいけないか手立てが考えやすかったです。また、このような振り返りをする中で、自分はこういうときに失敗してしまうんだなと、後先のことを予測できるので振り返りはとても大事だなと思います。(組織に貢献する意識、チームワーク、見通しをもつこと、PDCAサイクルによる振り返りと改善方策の立案)

- ・失敗をしたら、他の人に迷惑がかかるので、迷惑をかけないようにしたこと。確実な仕事をするために、聞かれたことを理解すること(できていなかったら、もう一度聞く)。1・2・3年の交流が増えてより多くお客さんに満足のいく皿を作ろうと思ったこと。(確実な知識理解、質の高い製品の製造)
- ・意識や考えで変わったところは、学校祭に向けての製品作りなどの動きや、商品知識などの考えが変わったところだと思います。今までよりも仕事や製品に対しての向き合い方が変わり、失敗をしたときに周りの人への被害の大きさがわかりました。より仕事に対しての気持ちの入れ方が変わったと思います。どうしたら会社のためにつながる働きができるか考えるようになり、意識することが増えました。(商品管理、商品知識、正確な業務の推進、組織への貢献意識)
- ・学校祭などの売る個数や何個売れたかなどをはあくしたり、作業中の行動でいつまでにどのぐらい終わらせるかなどを考えるようになりました。(売り上げ計算、納期の意識)
- ・いらいらしないでしごとをする。(仕事のための自己統制の意識)
- ・1つでも多く製品を多く作るという意識が増えたと思います。(生産性の向上の意識)
- ・自分自身が仕事だと思って、各学科の製品を一生懸命作ったりなどの頑張りが見られるようになったと思います。(会社意識を持つことによる努力する意欲や態度の獲得)
- ・自分が仕事をしたときと同じように、物を作って売ってということで、利益が出るなどのことが分かるようになりました。(会社の仕組みの理解)
- ・私は役員をしましたが、前は作業は自分のためにあると考えていましたが、イマカネファクトリーができてからは会社のためと商品を買うお客さんを想像できるようになった。(会社設立による組織に対する意識と他者意識の獲得)
- ・製品のことも考えることがいっぱいありましたが、みんなのいけんもたくさん出ていたので、よかったです。(製品と仕入れ商品の増加に伴う、話し合いの活性化)

② 生徒の変容

これまでの作業学習では、「自分の目線でお皿を作っていた。」「うまく作れるようになりたい。」「楽しくやりたい。」など、生徒の生産に対する考え方は、自分目線の範囲内にあり、個人目標の達成を目指して取り組んでいた。

ア 生徒の生産に対する考え方の変容

模擬株式会社になってからは、受注生産を増やしたことにより、次のとおりの変容が見られた。

(生徒の記述内容に見られる変容)

- ・「より多くお客さんに満足のいく皿を作ろうと思った。」や「お客さんのことを考えて丁寧に作るようにしたり、デザインや色なども自分で考えられる」ように変化した。
- ・「挑戦することによって今までできなかったことができるようになったり、与えられた仕事は最後まで責任を持って役割を果たそうとする」ようになった。
- ・「1つでも多く製品を多く作るという意識が増えた」と自覚できるようになった。
- ・「自分自身が仕事だと思って、各学科の製品を一生懸命作ったりするなど」頑張れるようになった。
- ・「自分たちのやっていることを会社の役に立ちたいという思いに」変わったり、「会社のため

に何をするか」を考えるようになった。

- ・作業以外の授業も、毎日の作業や将来の仕事をより上手に行うことにつながっていることが分かり、自ら変わろうと意識的な努力を重ねるようになった。

生徒の記述内容からは、「受注生産による実社会を想定した動き、他者意識」、「会社意識を持つことによる努力する意欲や態度の獲得」、「受注生産によるよりよい製品の製造の工夫、見通しをもった仕事の進め方、責任感」、「生産性の向上の意識」、「組織（会社）への貢献の意識」などの向上が見られた。

イ 習得意欲・作業意欲の向上

これまでの作業学習では、「期限内に何枚作るという納品日がなかった。」、「校外からの受注品がなかった。」、「丁寧に皿を作っていなかった。」などから、正確な知識や技術を身に付けようとする意欲が必ずしも高いとは言えない状況にあった。

模擬株式会社になってからは、受注生産を増やしたことにより、次のとおりの変容が見られた。

（生徒の記述内容に見られる変容）

- ・「製品のことも考えることがいっぱいありましたが、みんなの意見もたくさん」出るようになった。
- ・「先生方に組織図の理解の仕方を聞きに行ったりしたので、今では自分でも書けるようになりました。」
- ・「期限内に皿を作るようになった。」
- ・「実際に社会に出たときのことを想定して動くことが何度もあり、お客様とのやり取りが発生する場面が何度もあった。」ことで、規格に応じた製品を作ろうとするようになった。
- ・「失敗をしたら、他の人に迷惑がかかるので、迷惑をかけないように」失敗しないように作業を進めるようになった。
- ・「確実な仕事をするために、聞かれたことを理解する」ようになった。
- ・「メモにまとめたことを舍に帰ったときに」、「迷惑をかけないために、メモしたことをまとめ直した。」
- ・「今日1日の振り返り」をするようになった。
- ・「今日の自分の給料はいくらになるか自己評価して計算して、給料を増やすための行動、仕事」をするようになった。
- ・全体像を把握して行動し、他の人の仕事の手伝いをした。自分の役割を果たすために、責任を持って確実に仕事をした。
- ・「商品知識などの考えが変わった。」

生徒の記述内容からは、「話し合いの活性化」、「自ら学ぼうとする意欲」、「見通しをもった製造意欲」、「納期を守る意識」、「質の高い規格に沿った製品製造方法の工夫」、「正確な製品製造」、「確実な知識の習得」、「振り返り」、「仕事ぶりの自己評価」、「責任をもった仕事」、「製品や品の知識の深化」などの向上が見られた。

ウ 社会で働くために必要な業務スキルの獲得

これまでの作業学習では、「うまく作れるようになりたい。」「楽しくやりたい。」などから、製品を楽しく製造するという製造に意識が焦点化された状況であった。また、「個人個人で作業をしたり」、「報告・連絡・相談もあまりやらないでコミュニケーションもあまり取っていない。」、「お皿を作るにあたって個人でどんどん作って、全体の調整を先生方がしていた。」、「自分一人が作る製品だけを気にいられた。」など、チームとしての組織化された製品製造ではなかった。そのため、業務スキルの獲得に必要感を感じにくい状況にあった。

模擬株式会社になってからは、受注生産を増やしたことにより、次のとおり社会で職業生活を送る上で必要な業務に関する幅広いスキルを獲得するようになった。

模擬株式会社になってからは、受注生産を増やしたことにより、次のとおりの変容が見られた。

(生徒の記述内容に見られる変容)

- ・「失敗したら、それを取り戻すために周りのために何かできることを探して取り組んだり、修正していく力も」身に付けるようになった。
- ・「時間を意識して取り組んだり、見通しとってほしいの流れを立てたりし、先のことを考えながら取り組めるようになりました。」
- ・「見通しを立てることをやり、(納品)期日がわかっていて、そのために1つあたりの時間と残り時間を考えた仕事の取り組みをした。」
- ・「自分の気持ちよりも相手のことを考えて、お皿を作ったり上司の人や周りに人が困らないような言葉や行動」をするようになったり、一番の優先順位を考えられるようになった。
- ・「学校祭などの売る個数や何個売れたかなどをはあくしたり、作業中の行動でいつまでにどのくらい終わらせるかなど」を考えるようになった。
- ・「いらいらしないでしごとをする」ことを気をつけるようになった。
- ・「必要なことの確認、期限、日程、報告・連絡・相談などを自分からするようになった。」
- ・「上司や周りに迷惑をかけたくないと思うことが増えた。自分一人でも出来るようにしないと考えるようになった。」
- ・「見通し、報告、連絡、相談(仕事がしやすい環境をつくるために、また、周りの人を困らせないなど)、確認もしすぎると、周りの迷惑になることや、自分の役割をはたしてから自分のためになることを考える、行動するなど」に一日中取り組んできた。
- ・「組織図を使ってわかりやすく動いたりなど本当に卒後の職場を想定した動き方をした。」
- ・「組織図を使ってみんなと関わる場面で、自分もしっかり全体のことを把握するようにした。」
- ・「生徒だけでなんでも進められるようにした。」

生徒の記述内容からは、「他者意識に立った作業の仕方やコミュニケーション」、「売り上げ計算、納期の意識」、「仕事のための自己統制の意識」、「社会で働く上で必要なスキルの獲得」、「他者意識に立った作業の仕方やコミュニケーション」、「キャリア教育の観点から、生徒にとって分かりやすくするために、全ての活動を仕事として押さえ、教科の授業は仕事を効果的・効率的に進めるための観点や方法を研修する場という考え方」などの向上が見られた。

エ 障がいの自己理解と長所を生かした責任ある業務遂行の意識化・行動化

これまでの学校の学習では、「自分の障がいと向き合う時間」が個々の生徒に応じて十分に設けられてはいなかったため、目の前の課題から逃げて作業に集中できない生徒もいた。また、作業学習が教師に指示に添った個人個人の作業となっていたため、生徒相互の話し合いや学びが少なく、他者の助言を受け入れて考えたり、他者のよさに気付いてほめたり助言したりする機会が少なかった。

模擬株式会社になってからは、受注生産に伴って納期を守った製造や、「組織図」や「〇〇担当」など、自分の働きが会社にどのように貢献できるかを実感できるようになってきたことや学級で障がいと向き合う時間を設けたにより、「自分の障がい特性と課題を理解して、改善のための手立てを考えること」や「長所をどのように生かすか」など、責任を持って取り組むために自分ができることをノートに書いて、試行錯誤しながらも取り組むようになった。

(生徒の記述内容に見られる変容)

- ・「逃げずに障がいを知って自分自身を知ることができて、少しずつだけど自分のことを好きになっていくことを学びました。」

- ・「今までは個人でやってきた作業も仲間とペアやグループを作って、会社の組織みたく動くことが増えたので、自分はどの立場にいてどんな仕事があるかすぐに分かるようになりました。」
- ・「自分の役割を理解しないで物事を進めてしまうと、それが失敗につながってしまうので、自分のこともそうだけど、周りのために何かしたり、迷惑をかけたくないという思いを持つことで仕事をするときに意識や考え方が変わってきた。」
- ・「PDCAサイクルをやり、今中生との交流学习があって振り返りシートを書いたときにPDCAをもとに振り返りをしたことで、失敗したときに次どうしなければいけないか手立てを考え、改善できるようになった。」
- ・「このような振り返りをする中で、自分はこういうときに失敗してしまうんだなと、後先のことを予測できる」など、障がい特性と課題に向き合い、改善のための手立てを考えることができるようになった。」
- ・「長所をどのように生かすか」など、責任を持って取り組むために自分ができることを振り返りノートに書いて取り組むようになった。」
- ・「自分の障がいと向き合う時間も作ってくれたので、逃げずに障害を知って自分自身を知ることが出来て、少しずつだけど自分のことを好きになっていくことを学びました。」

生徒の記述内容からは、「障がいの自己受容・自己理解」、「他者意識と自己の立ち位置や立場の理解」、「役割の理解と責任」、「PDCAサイクルによる振り返りと課題の改善」、「長所への気づきと活用」などの向上が見られた。

オ チームワークの意識の向上

これまでの作業学習では、作業学習が教師に指示に沿った個人個人の作業となっていたため、チームで仕事をする機会が少なかった。

模擬株式会社になってからは、受注生産に伴って納期を守った製造や学科の定番製品の製造をペアやグループで協同学習を活用して取り組むようになったため、「自分は会社の一員である。」という考え方ができるようになってきたことにより、学級の仲間意識が強くなり、「チームで仕事をする。」「チームで活動する。」というチームワークの意識が高まってきた。

(生徒の記述内容に見られる変容)

- ・「報告・連絡・相談をどんなときでも使うこと、3つのことをすることで、上司や周りに人が困らないし、気持ち良く仕事ができることを知りました。3つのことはどんな場所でもやらないといけないし、やったほうが人との信頼、人間関係が少しでもつくことを」学ぶことができた。」
- ・「今までよりも仕事や製品に対しての向き合い方が変わり、失敗をしたときに周りの人への被害の大きさが」が分かり、「より仕事に対しての気持ちの入れ方が」変わった。」
- ・「どうしたら会社のためにつながる働きが出来るか考えるようになり、意識することが増えました。」
- ・「自分一人でこの作業が成り立っているわけではない。周りの人がいるから今があるんだと思うようになった。」
- ・「周りのために何かしたり、迷惑をかけたくないという思いを持つことで仕事をするときに意識や考え方がだいぶ変わりました。」

生徒の記述内容からは、「仕事をスムーズに進めるスキルを活用したチームワークの向上」、「他者を思いやった業務遂行」、「周囲の人への感謝」、「会社への貢献」などの向上が見られた。